【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社
redefining / standards
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

Global Partner/Net VA

グローバルパートナー/Net VA

＊Global Partnerおよび Net VA は、弊社変額個人年金保険の販売名称です。

月次運用レポート

2013年7月

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エクスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

アライアンス・バーンスタイン*／アライアンス・バーンスタイン株式会社

アライアンス・バーンスタイン株式会社は、米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーを中核とするアライアンス・バーンスタイン*の日本拠点です。アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーは1971年の設立以来、資産運用会社として長年にわたる歴史を有し、世界各国の主要都市に業務展開を行い、個人投資家や富裕層、機関投資家向けに投資信託や年金運用等の投資サービスを提供しています。業界最大級のグローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、グロース株式、バリュー株式、債券、ブレンド戦略など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

*アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。

- アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面（契約概要／注意喚起情報）（*）」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

＊ 金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート　（2013年7月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 ［ 2013年7月 ］

【日本株式市場】

日本株式市場は、TOPIX（東証株価指数）が前月末比▲0．19%下落の1，131．70ポイントで終了しました。
月前半は、日銀短観の改善や円安の進行、FRB(米連邦準備制度理事会)議長発言から量的緩和縮小観測が後退したことなどを背景に米国株式が堅調に推移したことなどから上昇しました。加えて、参議院選挙で自民・公明圧勝と事前に報道されていたことも株式市況の追い風となりました。月後半は、米国の景気指標や企業業績を好感して上昇した後、一部の国内企業の業績下方修正や円高進行などを背景に下落しました。
業種別（東証33業種）では、主力銘柄で業績が上方修正された他、金価格の反発も好感された「非鉄金属」（前月末比＋7．76%）が最も上昇した一方、業績懸念から「化学」（同▲3．18%）が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、月前半、米雇用統計の改善や、FRB議長発言から量的緩和縮小観測が後退したことなどを受けて上昇しました。月後半は、2013年4－6月期の企業決算が概ね市場予想を上回ったことなどを受けて堅調に推移し、NYダウは、前月末比＋3．96%上昇の15，499．54ドルで終了しました。
欧州株式市場は、上旬から中旬にかけては、ポルトガルの政局不安などにより一時下落する局面がありましたが、ECB(欧州中央銀行)総裁の低金利政策継続示唆やFRB議長発言などにより上昇しました。下旬は、欧州の一部企業の業績が予想を下回ったことなどによりドイツ株式市場などでは下落基調で推移しましたが、月を通してみると、市場別騰落率は、英FT100が前月末比＋6．53%上昇、仏CAC40が同＋6．79%上昇、独DAXが同＋3．98%上昇となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、月前半、長期国債入札への警戒感などから金利は上昇(価格は下落)しましたが、米国で量的緩和縮小観測が後退し、米国金利が低下したことなどを受け、金利は低下(価格は上昇)しました。月後半は、米国金利低下の影響や、国内株式の下落などを受けて買いが優勢となり、金利は低下基調で推移しました。新発10年国債利回りは0．795%となりました（前月末は0．855%）。
日銀はマネタリーベースが年間約60～70兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節を行いました。無担保コール（翌日物）は0．1%程度の水準で推移しました。

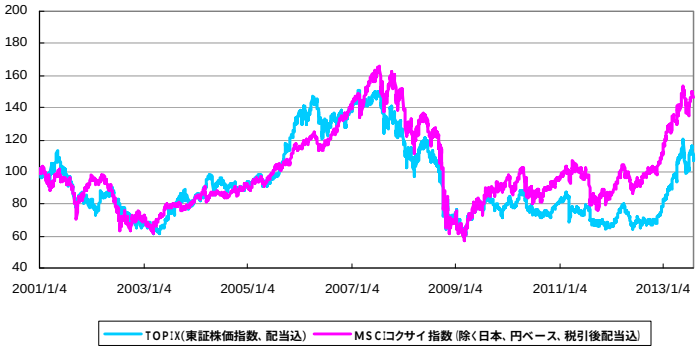
【外国債券市場】

米国債券市場は、上旬から中旬にかけて、米雇用統計の改善などを受けて一時金利は上昇(価格は下落)しましたが、FRB議長発言から量的緩和縮小観測が後退したことなどを受けて低下(価格は上昇)しました。下旬は、5年国債入札が不調との見方から10年国債にも売りが強まり、金利は上昇基調で推移し、米10年国債利回りは、月末は2．576%となりました（前月末は2．486%）。
欧州債券市場は、上旬から中旬にかけて、米雇用統計の改善などにより金利が上昇(価格は下落)する局面がありましたが、ECB総裁やFRB議長が金融緩和姿勢を示唆したことなどから低下(価格は上昇)しました。下旬は、ユーロ圏の製造業活動が予想外に拡大したことなどから、ドイツ国債需要が後退して金利は上昇基調で推移しましたが、月を通してみると、独10年国債利回りは、月末は1．670%となりました（前月末は1．728%）。
FRBは、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標を据え置き、年0．0～0．25%を維持しました。ECBは政策金利を据え置き、年0．50%を維持しました。

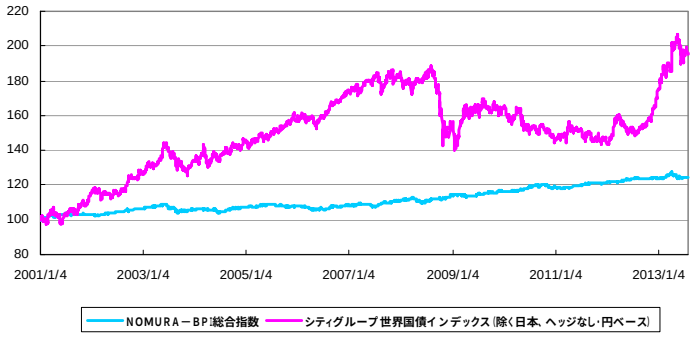
【外国為替市場】

米ドル／円相場は、月前半、米雇用統計の改善などを受けて円安となりましたが、米国の量的緩和縮小観測の後退や米国の長期金利低下による日米金利差の縮小などから、円高ドル安が進みました。月後半は、米国株式や米国債の動きが落ち着きリスク選好の動きが強まり円安の局面がありましたが、月末のFOMC(米連邦公開市場委員会)で実質ゼロ金利政策継続の目安となる失業率の水準が議論されるとの報道や国内株式の大幅下落などを受けて円高が進み、円は対ドルで前月末比51銭（0．52%）円高ドル安の1ドル＝98円08銭となりました。
ユーロ／円相場は、月前半、ECBが緩和的な政策の維持を示唆したことなどにより円高の局面がありましたが、米国の量的緩和縮小観測が後退したことなどを受けユーロが対米ドルで上昇した結果、円安となりました。月後半は、ユーロ圏の景況感の改善などにより円安基調で推移した後、月末にかけて国内株式の大幅下落などを受け円高となりましたが、月を通してみると円は対ユーロで前月末比1円52銭（1．18%）円安ユーロ高の1ユーロ＝130円05銭となりました。

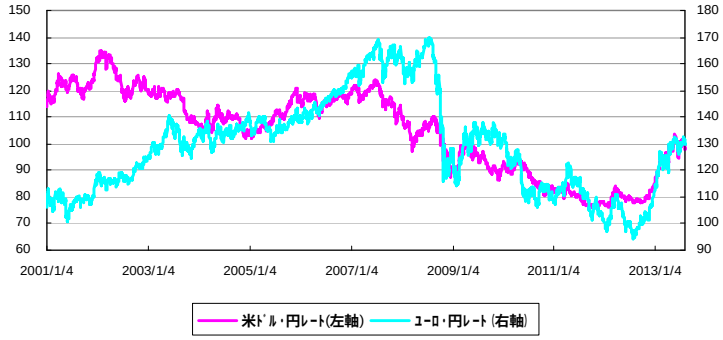
日本と外国の株式市場の推移
*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



日本と外国の債券市場の推移
*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所：株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート（2013年7月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	基本資産配分比率	運用方針	利用する投資信託	
			投資信託名	委託会社
ライフ・ソリューション30	株式 30% 債券 70%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型 (B) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
ライフ・ソリューション50	株式 50% 債券 50%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の50%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型 (B) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
ライフ・ソリューション70	株式 70% 債券 30%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型 (B) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
日本株式	日本株式 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。	アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド (B) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
世界株式	世界株式 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国（日本を含む）の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH（為替ヘッジあり）	アライアンス・バーンスタイン株式会社
世界債券	世界債券 100%	主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	アライアンス・バーンスタイン グローバル・ボンドII・ポートフォリオ（クラスS1受益証券）	アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
マネープール	短期金融資産 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。	アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド (B) (適格機関投資家私募)	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

※ 特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。
※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先： カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

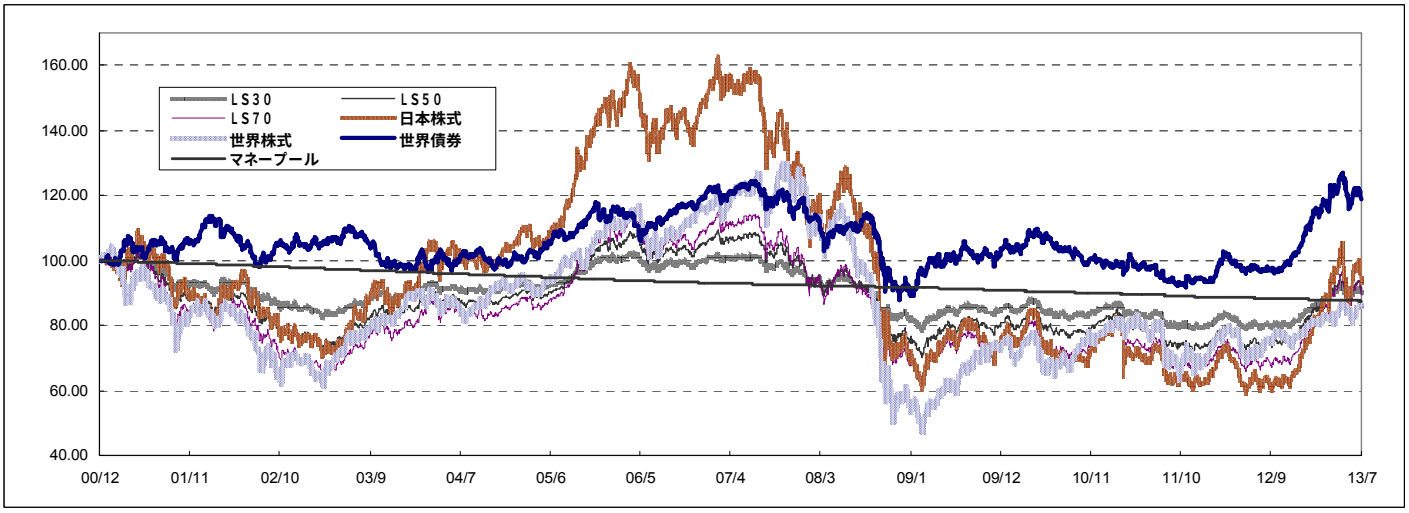
変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート　(2013年7月)

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況　[2013年7月 末日現在]

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



ライフ・ソリューション30			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2013年7月末	89.92	過去1ヵ月	0.23
2013年6月末	89.71	過去3ヵ月	▲0.70
2013年5月末	90.14	過去6ヵ月	4.70
2013年4月末	90.55	過去1年	12.72
2013年3月末	88.16	過去3年	7.86
2013年2月末	86.61	設定来	▲10.08

ライフ・ソリューション50			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2013年7月末	91.05	過去1ヵ月	0.48
2013年6月末	90.61	過去3ヵ月	▲1.18
2013年5月末	91.40	過去6ヵ月	8.18
2013年4月末	92.14	過去1年	22.44
2013年3月末	87.91	過去3年	16.30
2013年2月末	85.35	設定来	▲8.95

ライフ・ソリューション70			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2013年7月末	89.82	過去1ヵ月	0.65
2013年6月末	89.24	過去3ヵ月	▲1.60
2013年5月末	90.27	過去6ヵ月	11.17
2013年4月末	91.28	過去1年	31.41
2013年3月末	85.71	過去3年	23.68
2013年2月末	82.33	設定来	▲10.17

日本株式			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2013年7月末	93.53	過去1ヵ月	▲0.33
2013年6月末	93.84	過去3ヵ月	▲3.51
2013年5月末	94.43	過去6ヵ月	17.36
2013年4月末	96.93	過去1年	50.17
2013年3月末	88.23	過去3年	33.01
2013年2月末	82.39	設定来	▲6.46

世界株式			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2013年7月末	85.85	過去1ヵ月	3.95
2013年6月末	82.59	過去3ヵ月	3.15
2013年5月末	85.99	過去6ヵ月	5.71
2013年4月末	83.23	過去1年	16.16
2013年3月末	82.62	過去3年	23.76
2013年2月末	80.91	設定来	▲14.15

世界債券			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2013年7月末	118.98	過去1ヵ月	▲0.37
2013年6月末	119.42	過去3ヵ月	▲2.04
2013年5月末	124.20	過去6ヵ月	5.83
2013年4月末	121.45	過去1年	23.10
2013年3月末	116.31	過去3年	14.94
2013年2月末	114.34	設定来	18.98

※ 特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp）にて各営業日にご確認いただくことができます。

マネープール			
ユニットプライス		騰落率 (%)	
2013年7月末	87.55	過去1ヵ月	▲0.09
2013年6月末	87.63	過去3ヵ月	▲0.29
2013年5月末	87.74	過去6ヵ月	▲0.50
2013年4月末	87.80	過去1年	▲0.92
2013年3月末	87.84	過去3年	▲2.98
2013年2月末	87.91	設定来	▲12.45

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション30		ライフ・ソリューション50		ライフ・ソリューション70	
	金額（千円）	比率 (%)	金額（千円）	比率 (%)	金額（千円）	比率 (%)
現預金・その他	112,763	4.1	273,840	4.4	164,726	4.4
その他有価証券	2,669,473	95.9	5,982,406	95.6	3,610,169	95.6
合計	2,782,236	100.0	6,256,246	100.0	3,774,895	100.0

項目	日本株式		世界株式		世界債券		マネープール	
	金額（千円）	比率 (%)	金額（千円）	比率 (%)	金額（千円）	比率 (%)	金額（千円）	比率 (%)
現預金・その他	163,231	4.2	98,101	4.2	121,744	4.9	46,228	11.8
その他有価証券	3,745,685	95.8	2,265,431	95.8	2,344,085	95.1	345,889	88.2
合計	3,908,917	100.0	2,363,533	100.0	2,465,829	100.0	392,117	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託並びに外国投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。
※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

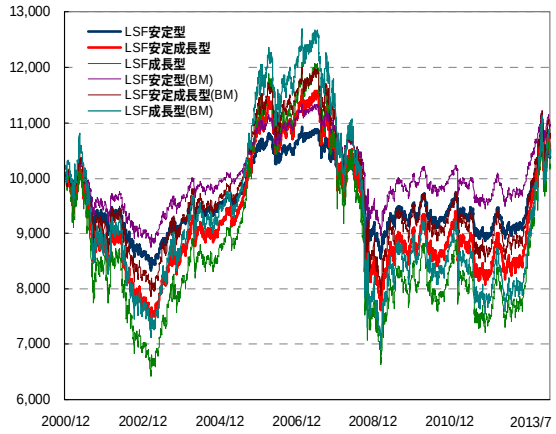
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート(2013年7月)

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告をアクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　ライフ・ソリューション30・50・70　[2013年7月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■利用する投資信託について

[投資信託名]　LS30 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型(B)(適格機関投資家私募)
LS50 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型(B)(適格機関投資家私募)
LS70 ⇒ アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型(B)(適格機関投資家私募)
[委託会社]　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
[運用方針]

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%・50%・70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主として
アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)、
アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)、
アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)、
アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)、
アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)
に投資します。

＊LS:　特別勘定　ライフ・ソリューション
＊LSF:　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定型	0.35%	▲0.39%	5.54%	14.40%	12.09%	3.75%
BM	0.34%	▲0.21%	5.39%	12.79%	11.35%	9.35%
差	0.01%	▲0.19%	0.15%	1.61%	0.74%	▲5.60%

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定成長型	0.61%	▲0.90%	9.16%	24.43%	21.10%	4.63%
BM	0.49%	▲0.46%	9.01%	21.82%	18.16%	7.32%
差	0.11%	▲0.44%	0.15%	2.60%	2.94%	▲2.69%

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF成長型	0.77%	▲1.37%	12.27%	33.69%	28.85%	1.87%
BM	0.68%	▲0.72%	12.51%	31.04%	24.76%	4.23%
差	0.09%	▲0.64%	▲0.24%	2.65%	4.09%	▲2.36%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。
　　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、合成ベンチマークを指します。合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	LSF安定型	LSF安定成長型	LSF成長型
東証株価指数(TOPIX)*1	24.00%	40.00%	55.00%
S&P500種株価指数*2 (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)	3.00%	5.00%	7.50%
MSCI欧州株価指数*3 (為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)	3.00%	5.00%	7.50%
日興債券パフォーマンス・インデックス (総合*4、中期3年以上7年未満)	30.00%	25.00%	17.50%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート*5 により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの	40.00%	25.00%	12.50%

■当投資信託の資産配分比率

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	LSF安定型
日本株式	24.00%	23.72%
米国株式	3.00%	3.87%
欧州株式	3.00%	3.90%
日本債券	30.00%	32.22%
短期金融資産等	40.00%	36.29%
合計	100.00%	100.00%

	基本資産配分	LSF安定成長型
日本株式	40.00%	42.42%
米国株式	5.00%	7.19%
欧州株式	5.00%	6.81%
日本債券	25.00%	26.00%
短期金融資産等	25.00%	17.58%
合計	100.00%	100.00%

	基本資産配分	LSF成長型
日本株式	55.00%	58.02%
米国株式	7.50%	9.65%
欧州株式	7.50%	9.22%
日本債券	17.50%	17.10%
短期金融資産等	12.50%	6.00%
合計	100.00%	100.00%

※　各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。(短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。)

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は、LSF30(安定型)、LSF50(安定成長型)、LSF70(成長型)それぞれ、前月末比+0.35%、+0.61%、+0.77%となりました。一方、ベンチマークの騰落率は、前月末比+0.34%、+0.49%、+0.68%となり、ベンチマーク対比+0.01%、+0.11%、+0.09%となりました。米国では、6月の雇用統計の非農業部門雇用者数が前月比19万5000人増と事前予想を上回り、米国経済の堅調さを示しました。また、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長が緩和的な金融政策の必要性に言及したことも米国株式市場の押し上げ材料となりました。欧州では、欧州中央銀行(ECB)が長期にわたり金融緩和を維持するとの姿勢を示したことが欧州株式市場の支援材料となりました。日本では、予想された通り、参院選で与党が過半数の議席を確保し「ねじれ国会」は解消されましたが、事前に予想された通りの結果だったので、株式市場の押し上げ材料にはなりませんでした。日本経済指標については、6月の景気ウォッチャー調査で景気の現状判断指数が53.0と前月から低下するなど、日本株と円の乱高下を背景に景況感は若干悪化しました。一方で、機械受注は前月比10.5%増加と、設備投資が回復し始めたことを示しています。過去数ヶ月間乱高下していた債券利回りは落ち着きを取り戻し、大半の国でほぼ横ばいとなりました。為替は、対米ドルでは円高となった一方で、対ユーロでは円安となりました。当月の投資信託は、資産配分も銘柄選択もプラス寄与しました。資産配分では、株式を多めに保有していましたが、米国および欧州の株式市場が上昇したことで、プラス寄与しました。銘柄選択では、特に日本株式ファンドがプラス寄与しました。委託会社は今後について、ユーロ圏は引続き景気低迷が続くものの、日米の経済がけん引して、グローバル経済は緩やかに回復していくとみています。当投資信託については、ベンチマークに対してマネープールファンドへの配分比率を低位として株式の配分比率を高める戦略を維持する方針です。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

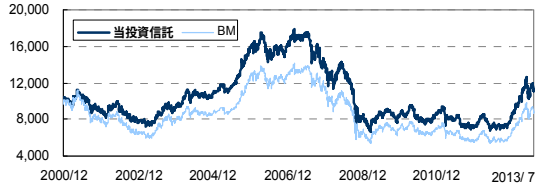
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先:　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート(2013年7月)

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　日本株式　[2013年7月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B)　(適格機関投資家私募)
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲0.23%	▲3.18%	18.93%	53.70%	39.73%	11.25%
BM	▲0.19%	▲2.87%	20.36%	53.70%	33.22%	▲12.22%
差	▲0.04%	▲0.31%	▲1.43%	0.00%	6.51%	23.47%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。
　　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)*1です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　業種別構成比率

	業種	マザーファンド
1	銀行業	14.24%
2	輸送用機器	10.64%
3	電気機器	9.43%
4	卸売業	7.97%
5	情報・通信業	7.27%
6	化学	5.27%
7	その他金融業	4.90%
8	医薬品	4.83%
9	その他業種	33.52%
10	現金等	1.93%
合計		100.00%

○　市場別構成比率

	市場	マザーファンド
1	東京証券取引所第一部	97.88%
2	東京証券取引所第二部	0.11%
3	ジャスダック証券取引所	0.08%
4	名古屋証券取引所第一部	0.01%
5	名古屋証券取引所第二部	0.00%
6	現金等	1.93%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	業種	マザーファンド
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.72%
2	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	4.17%
3	日本電信電話	情報・通信業	3.38%
4	KDDI	情報・通信業	3.22%
5	トヨタ自動車	輸送用機器	2.92%
6	ソニー	電気機器	2.81%
7	日産自動車	輸送用機器	2.75%
8	東海旅客鉄道	陸運業	2.66%
9	オリックス	その他金融業	2.63%
10	伊藤忠商事	卸売業	2.56%
合計			31.81%
組入銘柄数			110銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比▲0.23%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前月末比▲0.19%となりました。
当月の日本株式市場は、配当利回りの高い銘柄が相対的に下落する基調にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、上昇した投資会社や総合商社を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、上昇した金属を少なめに保有していたことや下落した事務機器およびREITを多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、上昇したダイハツ工業(7262)やオリックス(8591)を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、上昇したソフトバンク(9984)を保有していなかったことや下落した積水ハウス(1928)を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。
当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

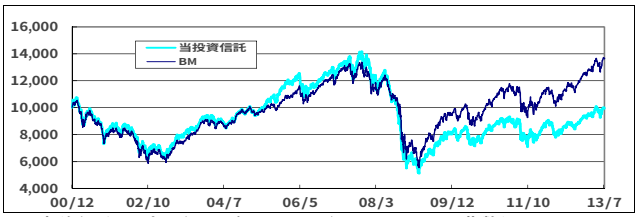
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先:　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート（2013年7月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　世界株式　［ 2013年7月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）を10，000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	4.24%	3.59%	6.56%	17.88%	28.84%	▲0.69%
BM	5.26%	3.55%	8.75%	23.64%	44.70%	36.24%
差	▲1.02%	0.04%	▲2.20%	▲5.77%	▲15.86%	▲36.93%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCIワールド・インデックス[*6]（税引前配当金込／為替ヘッジあり／円ベース）です。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH（為替ヘッジあり）
【委託会社】　アライアンス・バーンスタイン株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国（日本を含む）の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主としてアライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券に投資します。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　国／地域別構成比率

	国名	マザーファンド
1	アメリカ	55.46%
2	イギリス	10.83%
3	日本	6.31%
4	スイス	5.77%
5	フランス	5.64%
6	ドイツ	4.03%
7	カナダ	2.84%
8	オーストラリア	2.24%
9	その他の国／地域	5.76%
10	現金等	1.12%
合計		100.00%

○　セクター別構成比率

	セクター	マザーファンド
1	金融	22.16%
2	一般消費財・サービス	13.13%
3	ヘルスケア	12.24%
4	生活必需品	11.46%
5	情報技術	11.35%
6	資本財・サービス	10.83%
7	エネルギー	9.39%
8	素材	3.78%
9	その他のセクター	4.54%
10	現金等	1.12%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	業態	マザーファンド
1	アップル	アメリカ	情報技術	コンピュータ	1.73%
2	ロシュ・ホールディング	スイス	ヘルスケア	医薬品	1.63%
3	エクソン・モービル	アメリカ	エネルギー	石油・ガス	1.58%
4	ウェルズ・ファーゴ	アメリカ	金融	商業銀行	1.31%
5	日産自動車	日本	一般消費財・サービス	自動車	1.23%
6	ボーイング	アメリカ	資本財・サービス	航空宇宙・防衛	1.16%
7	パーカー・ハネフィン	アメリカ	資本財・サービス	機械	1.14%
8	ウォルト・ディズニー	アメリカ	一般消費財・サービス	メディア	1.13%
9	グーグル	アメリカ	情報技術	ソフトウェア・サービス	1.12%
10	ファーストリテイリング	日本	一般消費財・サービス	専門小売り	1.06%
合計					13.10%
組入銘柄数					236銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比＋4．24%となりました。一方、ベンチマークであるMSCIワールド・インデックス（税引前配当金込／為替ヘッジあり／円ベース）の騰落率は前月末比＋5．26%となりました。
ベンチマークとの比較では、セクター配分はベンチマーク並みとなったものの、銘柄選択がマイナス要因となりました。セクター配分では、公益事業セクターのアンダーウェイトなどがプラスに寄与した一方、生活必需品セクターのアンダーウェイトなどがマイナス要因となりました。銘柄選択では、情報技術セクターやヘルスケア・セクターにおける選択が主なマイナス要因となりました。
委託会社では、世界の株式市場は、投資家が米連邦準備理事会（FRB）の政策を注視するなか、短期的には不安定な相場となる可能性もあると見ています。最近の株価上昇はFRBによる積極的なリフレ政策によるところが大きく、その中核となるのが毎月850億ドルの資産購入です。そのような金融政策の見直しは低金利環境から金利上昇局面への移行を伴うものであり、過去に前例がありません。参考となる歴史がないことで先行き不透明感が強まり、市場が過度に反応する可能性も考えられます。このような環境下では、企業の成長性を見極めることがより難しく、安定した利益成長が期待される企業への注目度がより高まると見ています。今後も、社会や経済の構造的変化が作り出す長期的な成長トレンドを捉えながら、確固たる利益成長が期待される企業の中から、株価水準が魅力的な優良銘柄を厳選する方針です。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

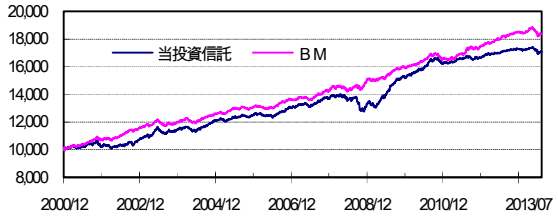
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート（2013年7月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　世界債券　［ 2013年7月 末日現在 ］

■当投資信託の純資産価格の推移



※　2000年12月21日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アライアンス・バーンスタイン―グローバル・ボンドII・ポートフォリオ（クラスS1受益証券）
【委託会社】　アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
【運用方針】

主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。原則として、投資信託の総資産の70%以上を米ドル建ての証券または米ドルをヘッジする証券に投資します。

※　当投資信託は、米ドル建ルクセンブルグ籍外国投資信託です。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.24%	▲1.93%	▲0.83%	▲0.45%	5.35%	124.38%
BM	0.40%	▲2.41%	▲0.23%	0.74%	10.32%	145.96%
差	▲0.16%	0.48%	▲0.60%	▲1.19%	▲4.97%	▲21.58%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（1996年11月20日）を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、バークレイズ・グローバル総合インデックス*7です。
・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

■当投資信託の詳細情報

○　国別構成比率

	国名	投資信託
1	アメリカ	32.11%
2	カナダ	9.92%
3	イギリス	8.41%
4	フランス	6.59%
5	日本	6.51%
6	ドイツ	3.85%
7	国際機関	3.74%
8	オランダ	3.21%
9	その他	21.31%
10	現金等	4.35%
合計		100.00%

○　格付別構成比率

格付	投資信託
AAA	54.60%
AA	17.26%
A	17.38%
BBB	10.52%
BB	0.24%
合計	100.00%

注）現金等はAAAに含まれます。
格付基準：
※　ムーディーズ社または スタンダード＆プアーズ（S&P）社のうち、いずれか高いほうを採用しています。

○　債券種別資産構成比率

	債券種別	投資信託
1	国債	45.32%
2	投資適格社債	30.26%
3	カバードボンド	8.53%
4	政府関連債	4.46%
5	国際機関債	3.75%
6	地方債	1.04%
7	商業用不動産担保証券	1.01%
8	準ソブリン債	0.99%
9	その他*	0.29%
10	現金等	4.35%
合計		100.00%

*　国債先物取引等を含む場合がございます。

○　組入上位10債券種類

	銘柄	国名	格付 ムーディーズ	格付 S&P	投資信託
1	アメリカ国債(2/15/15)	アメリカ	Aaa	AA+	8.15%
2	アメリカ国債(5/15/17-8/15/20)	アメリカ	Aaa	AA+	4.41%
3	日本国債(3/21/16)	日本	Aa3	AA-	4.36%
4	カナダ国債(3/15/14)	カナダ	Aaa	AAA	4.26%
5	カナダ国債(6/1/15)	カナダ	Aaa	AAA	3.41%
6	アメリカ国債(11/15/16)	アメリカ	Aaa	AA+	3.07%
7	アメリカ国債(5/15/18)	アメリカ	Aaa	AA+	2.88%
8	ニュージーランド国債(12/15/17)	ニュージーランド	Aaa	AA+	2.16%
9	オーストリア国債(9/15/16)	オーストリア	Aaa	AA+	1.99%
10	ベルギー国債(9/28/17)	ベルギー	Aa3	AA	1.65%
合計					36.34%

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

○　通貨別構成比率

	債券種別	投資信託
1	アメリカドル	63.44%
2	その他	36.56%
合計		100.00%

○　ポートフォリオの状況

	投資信託
平均デュレーション	4.83

※　「平均デュレーション」とは、当ファンドの組入銘柄のデュレーションを平均したものです。
　　債券価格の弾力性を示す指標として用いられ、金利の変化に対する債券価格の感応度を示します。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

当投資信託の騰落率は前月比＋0．24%、一方ベンチマークであるバークレイズ・グローバル総合インデックスは前月比＋0．40%となりました。
7月、当投資信託は銘柄選択を主因にベンチマークに対して軟調に推移しました。具体的には、投資適格社債における銘柄選択がマイナス寄与となりました。一方、セクター配分は、イギリスと米国投資適格社債への高めの配分と、米国不動産担保証券への低めの配分がプラス寄与となりました。年限配分や国別配分も若干のプラス寄与となったものの、通貨配分は大きな寄与はありませんでした。
当投資信託では、主に投資適格債に投資する慎重なポジションを維持します。ベンチマーク対比で投資適格社債を最も多めの配分とし、カバードボンド、政府関連債、商業用不動産担保証券を若干多めの配分とします。引き続き日本およびユーロ圏周縁国への配分を少なめとする一方、米国ならびにイギリスへの配分を高めとします。当投資信託は、先物を使用して全体のデュレーションをベンチマーク並みとなるよう徐々に長期化していますが、現状は、欧州や日本を中心にやや短めを維持しています。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

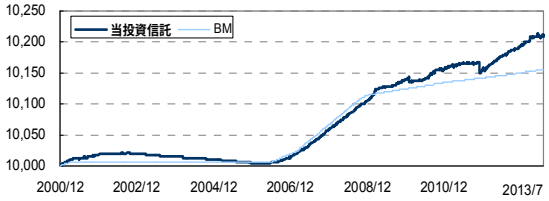
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険
特別勘定の月次運用レポート　(2013年7月)

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　マネープール　[2013年7月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ　ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド(B)　(適格機関投資家私募)
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.01%	0.02%	0.11%	0.30%	0.64%	2.10%
BM	0.01%	0.02%	0.04%	0.08%	0.24%	1.55%
差	0.00%	0.00%	0.07%	0.22%	0.40%	0.55%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。
　　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日本円無担保コールオーバーナイト物レート[*5]により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したものです。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　資産構成

	修正デュレーション	マザーファンド
公社債	0.86年	43.42%
国債	1.39年	16.52%
地方債	0.00年	0.00%
特殊債・財投債	0.00年	0.00%
金融債	0.00年	0.00%
社債等	0.53年	26.90%
その他	0.00年	0.00%
短期資産等	0.44年	56.58%
CD		0.00%
CP		0.00%
T-Bill		54.39%
コールローン		2.19%
その他		0.00%
合計	0.62年	100.00%

※　「T-Bill」には、残存期間が1年未満の国債を含みます。
※　「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

○　公社債の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
AAA	0.00%
AA	88.26%
A	7.83%
BBB	3.91%
BB以下(無格付含)	0.00%
合計	100.00%

格付基準　※　海外格付機関の格付を優先します。
※　コールローンは格付別構成比率には含めていません。
(公社債の格付別構成比率と短期資産等の格付別構成比率の合計が100%になります。)
※　海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付けを採用します。
※　T-Bill等国債同等の無格付短期資産においては短期格付をP-1格とします。
※　T-Billに分類された1年未満の国債については「○公社債の格付別構成比率」に含めています。

○　短期資産等の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
P-1	0.00%
P-2	0.00%
P-3	0.00%
無格付	0.00%
合計	0.00%

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比＋0.01%、一方、ベンチマークである日本円無担保コールオーバーナイト物レートは前月末比＋0.01%となりました。予想された通り、参院選で与党が過半数の議席を確保し「ねじれ国会」は解消され、「決められない政治」からの脱却が期待されます。日本経済指標については、6月の景気ウォッチャー調査で景気の現状判断指数が53.0と前月から低下するなど、日本株と円の乱高下を背景に景況感は若干悪化しました。一方で、機械受注は前月比10.5%増加と、設備投資が回復し始めたことを示しています。当月の2年国債利回りは前月比0.015%低下の0.117%となりました。委託会社は、日銀は当面もう一段の金融緩和措置に踏み込むつもりはないとみています。また、今後の日本経済のけん引役もはっきりしません。そのため日本国債市場はレンジ内取引が当面続くとみています。今後の運用方針として、年限の短い国債への投資で流動性を確保しつつ、質の高い社債へ投資して、安定した運用と利回りの向上をめざす方針です。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・5ページ～9ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、9ページに記載しています。

用語説明

＊1「東証株価指数(TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下㈱東京証券取引所)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は㈱東京証券取引所が有しています。
㈱東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

＊2「S&P500種株価指数」とは、スタンダード&プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード&プアーズ社に帰属しています。S&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、S&P500種株価指数(米ドルベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊3「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc.の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。
また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、MSCI欧州株価指数(ユーロベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊4「日興債券パフォーマンス・インデックス(総合)」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。
同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

＊5「日本円無担保コールオーバーナイト物レート」について。コール市場とは、民間金融機関が短期的な手元資金の余剰や不足を調整するための市場をいいます。
このコール市場において、金融機関間で、担保なしで、翌日に返済することを条件に、短期の資金を貸し・借りする取引に適用される金利を「無担保コールオーバーナイト物レート」といいます。

＊6「MSCIワールド・インデックス」とは、MSCI Inc.が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。
MSCIワールド・インデックスに関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
MSCIワールド・インデックス(税引前配当金込／為替ヘッジあり／円ベース)は、MSCIワールド・インデックス(米ドルベース)をもとに、為替ヘッジにかかる費用相当分を考慮して委託会社が円ヘッジベースに換算したものです。

＊7「バークレイズ・グローバル総合インデックス」は、バークレイズ・バンク・ピーエルシーおよび関連会社(バークレイズ)が開発、算出、公表をおこなうインデックスであり、世界の投資適格債券市場のパフォーマンスをあらわします。当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はバークレイズに帰属します。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先:　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/life/

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　①

【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動（増減）するしくみの変額個人年金保険です。
特別勘定資産の運用は、主として国内外の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を利用して運用され、
株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。
特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、このリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。
運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。
特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待通りでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

【諸費用について】

ご契約者などにご負担いただくこの保険の諸費用は、次のとおりです。

＜年金支払開始日前＞

●特別勘定のユニットプライス（単位価格）を計算する前にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
契約初期費用（増額費用）	特別勘定繰入前	保険料の2．0％	保険料から契約初期費用として2．0％が控除された後の金額が積立金として特別勘定で運用されます。（増額費用も同じ）
保険契約管理費（積立金比例額）	毎日	特別勘定の積立金総額に対して年率1．2％*	当社の経費に充当されます。（基本保険金額を死亡時に最低保証するための費用および災害死亡保険金のための費用を含みます。）

＊　毎日その日の始めの特別勘定の積立金総額に年率1．2％の365分の1を乗じた金額を毎日その日の終わりの特別勘定の積立金総額から控除します。

●ご契約の内容と取引の内容による費用

特別勘定のユニットプライス（単位価格）を計算した後にご負担いただく費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
保険契約管理費（件数比例額）	月単位の契約応当日	毎月　100円	契約1件あたり毎月の契約応当日の前日の積立金の合計額から控除します。
積立金移転費用	移転時	<書面による移転申込みの場合> 1回目1,500円 2回目以降は1回につき2,300円(*1)	毎回の移転について積立金から控除します。
		<インターネットによる移転申込みの場合> 月1回の積立金の移転は無料 2回目からは1回につき800円(*1)	1ヵ月に2回以上積立金の移転を行なう場合、2回目からの移転について積立金から控除します。
貸付利息	月単位の契約応当日および貸付金の返済時	貸付金額の年利1．2％	貸付金制度を利用されたとき、月単位の契約応当日および貸付金の返済時に、積立金から徴収します。
解約控除	解約時	積立金額の8．0％～0．8％	解約日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数（1年未満切り上げ）に応じて、積立金額に対して解約控除率（8％から0．8％）を乗じた金額を積立金額から控除します。
	減額時	減額に相当する積立金額の8．0％～0．8％	減額日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数（1年未満切り上げ）に応じて、減額に相当する積立金額に対して解約控除率（8％から0．8％）を乗じた金額を減額に相当する積立金額から控除します。

(*1) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行なった回数

※　貸付制度は、ご契約が成立後、会社の定める範囲内で何回でも貸付を受けることができます。

※　将来、上記の内容が変更になることがあります。

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　②

●その他間接的にご契約者にご負担いただく運用関係の費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフ・ソリューション30 年率0．945%程度(税抜0．900%程度)	特別勘定が利用する投資信託の純資産額に対して控除いたします。
		ライフ・ソリューション50 年率1．050%程度(税抜1．000%程度)	
		ライフ・ソリューション70 年率1．155%程度(税抜1．100%程度)	
		日本株式 年率0．840%程度(税抜0．800%程度)	
		世界株式 年率0．8925%程度(税抜0．850%程度)	
		世界債券 年率0．460%程度 *1	
		マネープール 年率0．034125%～年率0．483000%程度 (税抜0．0325%～0．4600%程度) *2	

※ 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。
信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。
また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。
これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

*1 世界債券のみ、ルクセンブルグ籍の投資信託を使用しているため、管理報酬等を記載しております。
管理報酬等には、予め定率として決められている管理報酬および管理会社報酬が含まれます。
その他、お客様にご負担いただく手数料には、保管報酬、管理事務代行報酬、名義書換代行報酬、ルクセンブルグ大公国の法令に基づく税金等、有価証券の売買手数料、保有する有価証券の譲渡・償還益および配当やクーポンに対する源泉徴収税等の諸費用がかかることがありますが、運用資産額の取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。

*2 マネープールの運用関係費は、各月の前月最終5営業日における無担保コールオーバーナイト物レートの平均値に応じて毎月見直されます。

＜年金支払開始日以後＞

●年金支払開始日以後にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の契約応当日	支払年金額の1．0%	年金支払開始日以後、年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

※ 年金管理費は、将来変更となる可能性があります。